

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社団 洛和会	代表者	矢野一郎	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス変更時の柔軟な受け入れ ・ご利用者のペースにあわせたサービス提供 ・職員間の情報共有と誰でも発言できる環境 ・町内会の行事などの参加
事業所名	洛和小規模多機能サービス西院	管理者	井上由紀子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	3人	人	人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	要望通り、数値の前年比など、少しでも解りやすい記載に工夫する。	◎数値化し辛い項目も多く、数値での報告量は少なかった ◎分り易い記載には努力した	◎数値化困難な項目が多いのが分かった ◎実例の説明が分り易かった	スタッフ全員で決めた改善策を表にまとめ進捗状況を見てもらう
B. 事業所のしつらえ・環境	①駐輪場掲示を設ける。 ②前年度は季節の飾りが少なく殺風景で、現在改善中。これを継続。	① 駐輪場掲示は未設置 ② 利用者様による季節の作品を毎月欠かさず飾った	① 地域の施設認知も深まり、今更看板掲示は不要では？ ② 以前より作品掲示が増えたのが来て見て分かった	「いつでもお入り下さい」などなるべく利用者様と手作りしたウェルカムボードを出す
C. 事業所と地域のかかわり	①イベントの継続。 ②依頼あれば地域の教室に協力。 ③ 利用者との地域外出継続。	① 本年度もイベントを継続した ② まだ一度だが地域教室に協力 ③ 真冬真夏以外実施できた	① イベント継続を希望 ② 教室講師をまたして欲しい ③ 喜ばれるだろうから継続を	地域の講師などの依頼は全て受ける
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域向け広告をポスティングし、通所無料体験や介護相談のキャンペーンを始めた。これを継続し地域に根ざしていく。	計約 350 戸に投函したが、具体的なアクションは頂けず	設問「閉じ込める」の意味がわかりにくかった。聞くと外出機会が多いのがわかった。	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議を実施した際は運営推進会議で報告する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	会議時、「心配な地域住民は？」等でなく、「様子見の要りそうな方は？」等、具体的に聞き出す。レジュメにも予め設問を入れる。	◎レジュメに予め設問を設けることが追いつかなかった。 ◎聞き出す事には努め、具体的に心配な例が会議に何度か挙がる	◎ブログ写真を伴う行事報告が始まり、判り易く楽しい ◎事故もきちんと報告する姿勢は良い	レジュメに「地域の心配事は？」の設問を入れておく
F. 事業所の防災・災害対策	災害時の受け入れキャパを本部に確認し、結果を推進会議等で伝える	受け入れキャパを本部に確認し、推進会議で報告した	「煙に巻かれて、しゃがみ歩きで逃げられる高齢者が居るか」など現実的防災を共に考えたいと提起頂く	大地震を想定した防災訓練の研修受講職員が小規模内で伝達。次年度は地域へ伝達する。